

令和6年度 鹿児島県 高病原性鳥インフルエンザ防疫演習

令和6年9月4日
鹿児島県農政部家畜防疫対策課

1

本日の演習

- (1) 鳥インフルエンザについて
- (2) 防疫措置の流れについて
- (3) 昨年度の発生事例について

2

高病原性鳥インフルエンザとは

(1) 原因（病原体）

WOAHが作成した診断基準により高病原性鳥インフルエンザウイルスと判定されたA型インフルエンザウイルス

元気消失



(2) 対象家きん

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

(3) 症状・特徴

元気消失、食餌や飲水量の減少、産卵率の低下、顔の腫れ、トサカや脚の変色(紫色)、咳、鼻水、下痢。

急性例ではこれらの症状を認めず、急死する場合もある。

※人獣共通感染症：海外では、家きん等との密接接触に起因する高病原性鳥インフルエンザウイルスの人の感染及び死亡事例も報告。

(4) 発生状況

渡り鳥により国内に持ち込まれることが多く、冬期に発生しやすい。我が国において、直近では、平成26、28、29、令和2、3、4、5、6年度に発生。

※内閣府食品安全委員会によると、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としている。

農林水産省

「鳥インフルエンザをめぐる情勢について」

3

症 状



沈うつ・羽毛の逆立ち



肉冠のチアノーゼ



肉冠の出血・壊死



顔面の浮腫性腫脹



脚部の皮下出血



急死

動物衛生研究部門 原図

4

届出の必要な状況

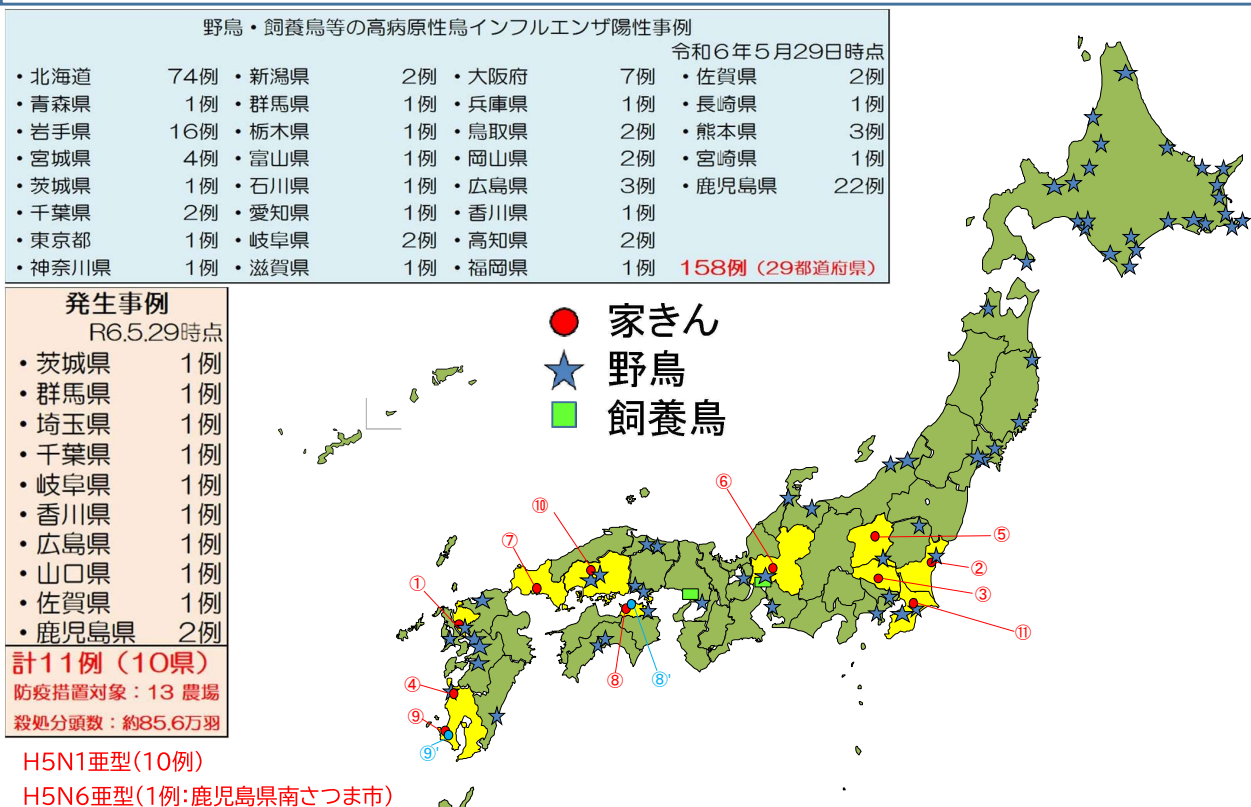
家畜伝染病予防法第13条の2及び防疫指針

1. 同一の家きん舎内において、1日の死亡率が過去21日間における平均死亡率の2倍以上となった場合。
(ただし、飼養設備の故障、急激な気温の変化、風水害等その他の要因で死亡したことが明らかな場合を除く。)
2. A型インフルエンザの抗原又は抗体が確認された場合。
3. 高病原性又は低病原性インフルエンザウイルス感染疑いを否定できない場合（鶏冠、肉垂のチアノーゼ等の症状、5羽以上がまとまって死亡など）。

5

令和5年度シーズン 高病原性鳥インフルエンザの発生状況

- 今シーズンは、家きん飼養農場では、11月25日に佐賀県において国内1例目が確認されて以来、**10県11事例**が発生し、**約85.6万羽**が殺処分の対象となっている。
- 死亡野鳥等においては、**29都道府県158例**の高病原性鳥インフルエンザ検出事例が確認されている。

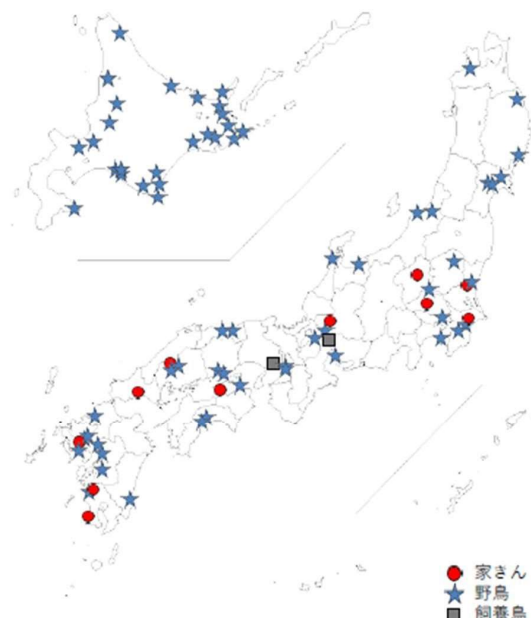


6

鳥インフルエンザの令和5年度シーズンと過去シーズンの発生状況

- 令和5年度シーズンは、過去のシーズンと比較すると、家さんでの初事例日は遅かったところ。
- 野鳥での感染については、10月4日に陽性を初確認。陽性確認件数はこれまでの4シーズンで2番目に多かった。

令和5年度シーズン鳥インフルエンザの発生状況



農林水産省

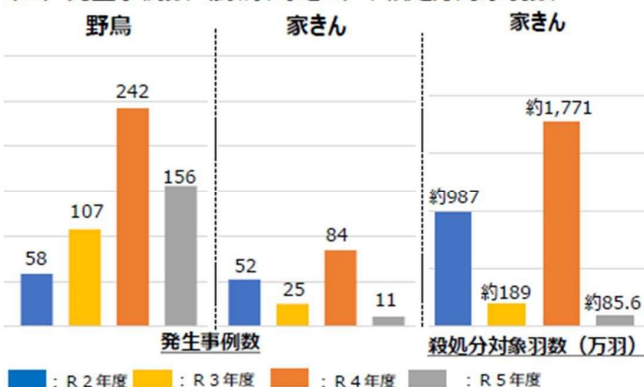
「鳥インフルエンザをめぐる情勢について」

過去シーズンとの比較

(1) 初発、最終確認日

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月19日	4月30日
家さん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日

(2) 発生事例数（野鳥、家さん）、殺処分対象羽数



7

高病原性鳥インフルエンザの発生・感染報告状況(2022年9月以降)

※WAHIS等への報告に基づく最終発生・感染報告日を記載



■ : 2022年9月以降に高病原性鳥インフルエンザの報告がある国・地域

※本図は感染事例の報告の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない。

※白色の国、地域であっても継続感染等により報告されていない可能性もある。

※WAHIS: World Animal Health Information Systemとは、WOAH(国際獣疫事務局)が提供する動物衛生情報システムである。

* 動物園における発生

出典:WOAH等

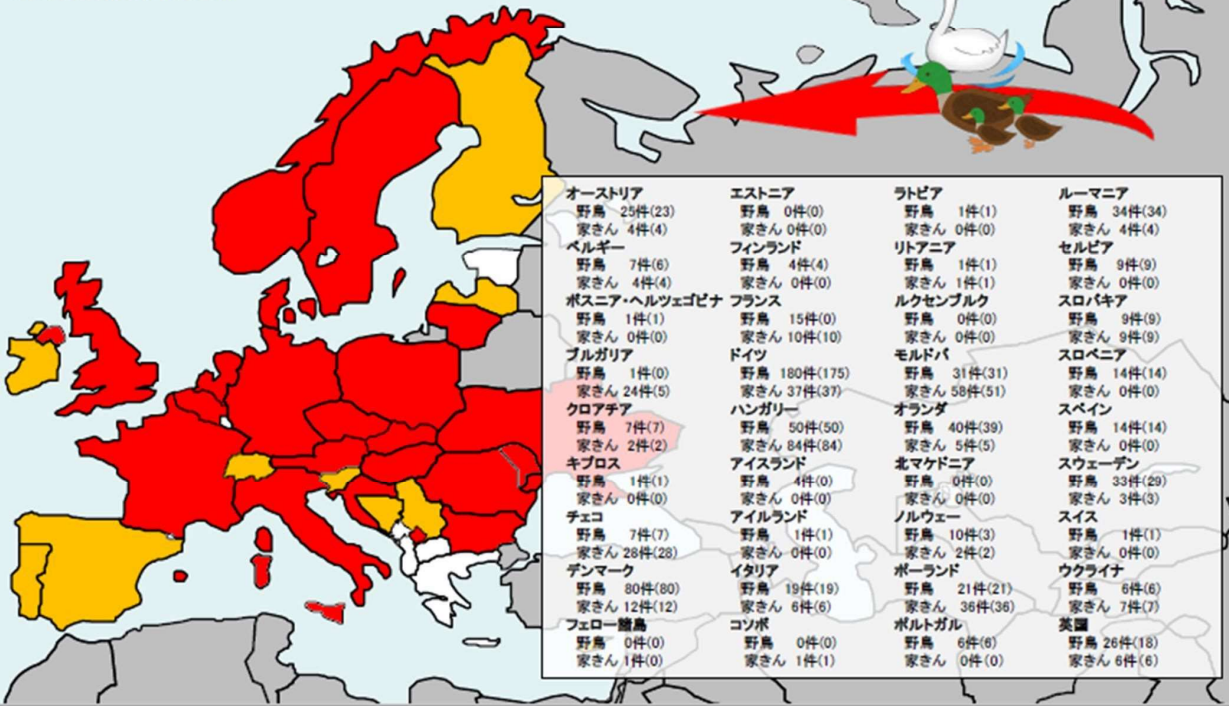
2024年8月27日現在

8

欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2023年10月以降)

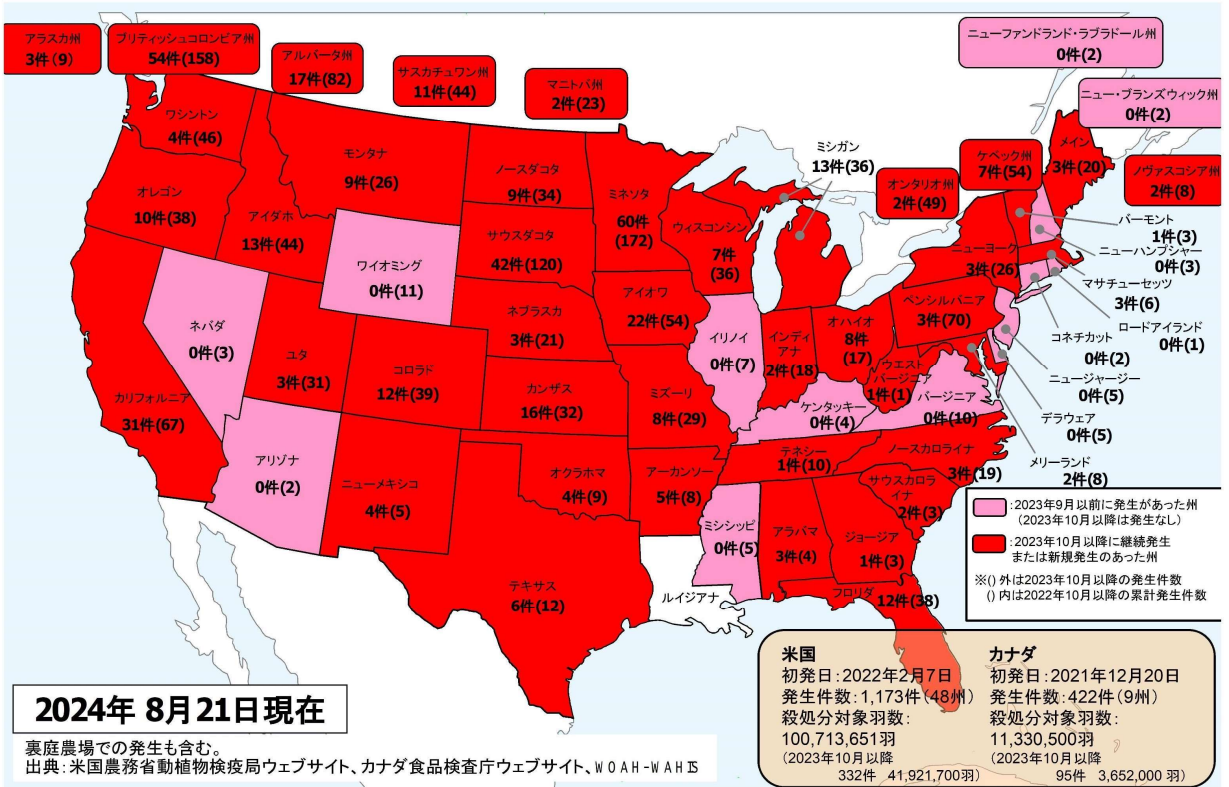
高病原性鳥インフルエンザ発生国 ■
野鳥のみ ■
※ ()内はH5N1亜型確定件数
家きん: 全344件、野鳥: 全857件

出典: EU報告書(掲載EFSA Journal)
(2024年6月16日まで)



9

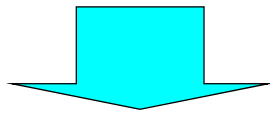
北米の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況



10

本演習の目的

- 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生時の防疫措置の流れや各機関の役割分担と連絡体制及び防疫対応を再確認。



発生した際の迅速で的確な初動対応